



病院には どんな仕事があるのかな？

病院は、病める人を社会復帰させることを目的とし、医師をはじめとする多くの職員の連携と協力による「チーム医療」に取り組んでいます。病院の中には、さまざまな業務があります。

医局・看護部・薬剤部・検査科・栄養管理室・放射線科・リハビリテーション科・臨床工学科・事務部・地域連携室などで働いている専門職種がチーム組んで、それぞれの専門分野での経験や知識、技術を集約して、患者さんに最も適した最新の治療にあたっています。

また、適切なアドバイスや必要な情報提供を行って早期社会復帰への手助けをしています。

FILE: 03 放射線科 Radiology Department

働いている方に
INTERVIEW

放射線技師の仕事について

～ 放射線技師・加戸さんに聞いてみた～

放射線技師を目指した理由

僕は高校生の時、人の役に立つ仕事がしたいと思い医療職を目指すようになりました。その時に薬剤師である兄が勧めてくれた職業が診療放射線技師でした。放射線技師について詳しく調べていくと、画像診断に必要なCTやMRIの画像検査、がんを治療するリニアック(放射線治療)を業務とし、現代の医療には欠かせない職業であることを知りました。それがきっかけとなり診療放射線技師を目指しました。

業務内容は？

診療放射線技師は医師の指示のもと人体に放射線を照射する装置を管理、操作する人を指します。少し具体的に紹介します。

①一般撮影業務

いわゆるレントゲン写真を撮影する業務で肺やお腹、骨の状態を撮影します。

②CT業務

ベッドに横になってガントリといわれる大きなドーナツ型の機械の中に入り頭から足の先まで全身を撮影することができ、基本的には器質の評価を得る画像診断となります。臓器や脳の状態や、造影剤といわれる薬を静脈内に注入することにより心臓や血流、血流の豊富ながん組織等を染めさせ評価することが出来ます。

③MRI業務

MRIは一見CTと似ていますが、放射線ではなく強力な磁石でできた筒の中に入り、磁気の利用して体の臓器や筋肉、血管など撮影できる機械です。狭い筒の中に入るので閉所恐怖症の方には難しいかもしれません。

④RI・PET業務

微量の放射線を出す性質を持った薬品を体内に投与して、体から出てくる放射線をガンマカメラという特殊なカメラで撮影、画像化し主に機能的評価を行います。使用する薬品を変えることによ

診療放射線技師
加戸 渉
(5年目)



り、いろいろな臓器や部位を検査できます。PETもRI検査と同様に放射線を出す薬品を体内に投与し、撮影します。RI検査と異なる点は、PET検査に使用する薬は体内ではブドウ糖とほぼ同じ動きをするため、ブドウ糖を大量に消費するがんなどの悪性腫瘍に集まりやすい性質をもっています。そのため、がんの場所や悪性度などの推測ができます。

⑤放射線治療

腫瘍細胞にエネルギーの大きな放射線を照射し、細胞レベルで作用させ死滅させることができます。デメリットとしてがんや腫瘍近くの正常細胞を傷つけてしまい、色々な副作用が出てしまうことがあります。

目標・やりがい

日頃の業務の中で、頭部や胸部、腹部など様々な部位を数多く撮影します。その画像を撮影していく中、医師の診断・治療したい病気を理解することで、より必要とした正確な画像を撮影することができます。

また、医師は撮影した画像をもとに病気の診断や体の状態を評価します。このことを「読影」といい、読影医が行います。この読影するのは医師の仕事ですが、撮影する放射線技師が高い読影能力を身につけることで、得られる画像の質は向上します。

診断する医師やそれをもとに治療を受ける患者さんのためにも、これらの知識や読影能力を高め、より良い画像を撮影していくことが、僕の目標であり、今のやりがいになっています。